

たすねてみたら

No.98

天覧開会式で行進

かつての甲子園球児を訪ねる
元・下館一高2年エース投手



宮田 勲さん(77歳)
松山南団地

生活が苦しい事情を知った監督さんたちが手をつくし役場の敷地内のみならず、

でも頑張って甲子園出場を果たしました。中学生の頃父や兄を亡くし家計は厳しく、野球をあきらめようとも思いません。

1959年8月、第11回大会の開会式、皇太子時代の天皇陛下は甲子園の貴賓室から行進する選手を見つめた。この中以下館一高の投手、宮田勲さん(松山南団地在住)がいた。(朝日新聞記事より)

入場行進の時、陛下の方をちらりと見ましたがどきどきしてすぐに目をそらしました。でも、苦しい生活の私たちに力をくれたように思えました。試合日は宮城の東北に1-15で大敗燃え尽きましたヨ。

卒業後は大手セメント会社に就職し役員に就任、茨城県の業界組合の理事長も10年務めさせていただきました。これも野球を通じてお世話になった皆様方への恩返しが出来たのかなと思っております。

(近所の喫茶店にて羽生記)

一番人気

自然観察会

幕末の豪農を観る

千葉県
柏市

11月13日65才以上の方対象の「自然観察会」が行われた。参加者は45人。千葉県柏市にある旧吉田家住宅歴史公園と布施介財天等を訪ねた。

旧吉田家住宅歴史公園内の旧吉田家はガイド付きで見学した。

6700坪の吉田家は、豪農・商家・士分をもつ大型の屋敷構えだ。主家は寄棟造り、重厚な茅葺き屋根は軒先で厚み1mという。中へ入ると土間、茶の間等すべてが広い。又、座敷から見る庭園は美しい。この日座敷ではCMの撮影が行われていた。

参道入り口に鳥居が立つ布施介財天は、東日本随一を誇る真言宗豊山派の寺院。総朱



▲旧吉田家住宅の説明を受ける

塗りの大本堂はともきれいだ。鐘楼は1818年の建立で、全国でも珍しい多宝塔式の総佛造り。設計は「からくり伊賀」といわれたつくば市の名主飯塚伊賀七のこと。皆さんは熱心に見まわっていました。また、境内にはピンピンコロリ

の地蔵さんがあり、参加者の多くが頭や体をなでていた。参加者の感想

○旧吉田家住宅を見学して、かつての豪農の力を垣間見る思いでした。武士の力にたてつくわけでもなく、それでいて自分の力をこれでもかと家を飾り立てるすこさに感じ入りました。反面、家の中から外を隠れ見ると、外の人間を低く見、雇人も信じていない。そんな所が今の感覚でちよつとなと思われました。

○農家と商家と武家の様子を備えた吉田家、茅葺き屋根がつくば流であるとのこと、身近にも感じられました。

初荷 心のこもったお年寄りにやさしいお弁当

1月17日新年お楽しみ配食が行われた。

宍戸地区に於いても高齢化は急速に進んでいる。女性部やこぶし

の会メンバーの高齢化も顕著だ。そのようなことから、配食は75歳以上のひとり暮らしの方対象の通常配食となった。それでも女性部役員は前日から準備をし、当口は女性部の4班と共に、手の込んだ多彩な料理に腕を振るつた。



▲お弁当と鍋敷

こぶしの会メンバーは、女性部手作りが作った鍋敷きと出来たてのお弁当を手にお年寄り宅に向かった。お年寄りからは「いつもありがとうございます。大変だっただししょう。お疲れ様です」の声があった。こぶしの会メンバーからは、安否確認を終え安堵の笑みがこぼれた。



▲手わたしてほっと安心

ありがとうフェスティバルin冬の陣

12月9日今年で2回目となる「フェスティバルin冬の陣」が開催された。

宍戸駅踏切を越えて、宍戸小学校方面へ向かう約400mが歩行者天国となり、道の両側には多くの店が並んだ。

冬晴れの寒い日であったが、近隣地区から出店した72のいろいろなお店は終始多くの人で賑わった。

チャリティーそば会場を訪れた皆さんは、2018年そば打ち大会で日本一となった仲山徹さん(松山団地2)の打ったそばに舌鼓を打っていた。

「地域の方々とのふれあい」を掲げる友高生は、友高まんじゅうを売り、茶道部がお点前を披露した。



▲人気の友高まんじゅう

初めてのししどサロン

一八幡下

前日の寒さとは一変、春を感じる暖かい日となった2月16日、宍戸支部会館で「ししどサロン」が開催された。

八幡下の皆さんが宍戸支部に加わってから初めてのサロンに、18人と社協役員ら7人が参加した。

アトラクションには、ハーモニークセセラギ(4人)・笑いヨガリーダー会(2人)の皆さんと南秀利先生の歴史講話があった。

ハーモニークセセラギさんのハーモニークの演奏で野口雨情作詞の数曲を皆で歌った。その中で赤いくつとしゃぼん玉は、悲しいことを詩にしたものだと言明があった。皆さんは一行一行かみしめるように歌った。

笑いヨガは、おかしくなくても大きな声で笑ってみると健康になるという。ホッホッハッハッハッと手をたたきながら大声で笑い汗をかいた。

昼食後は南秀利先生の八幡下を

含む宍戸の歴史を聞いた。橋爪にある八幡神社(創立不明)は全国に二万五千余社あることや八幡台から出土した蔵書器一対(骨つぼ)が市の文化財であることを知った。

宍戸小は創立130年を越えた。友部小は明治24年に宍戸小の付属小学校となり、この頃友部駅前には牧場であったと驚いた。

ビンゴゲームでは、リーチになつたがなかなかビンゴにならない人が大勢。それでも長い時間楽しめたようだ。



▲笑いヨガで健康長寿

第34回 GROUND GOLF

始まって以来のスコア小林さん



▲上位表彰者

表彰者(敬称略)

表彰者(敬称略)	スコア
☆男性の部	
1位 小林 利彦	28点
2位 雨谷 高市	32点
3位 倉持 一男	34点
☆女性の部	
1位 宮田 久恵	38点
2位 江田五百子	39点
3位 鎌倉 幸子	40点

(同スコアの場合、高齢者が上位)

さわやかな秋空が広がり、絶好の運動日和となった10月4日、北山グラウンドで宍戸地区高齢者グラウンドゴルフ大会が行われた。

グラウンドコンディションも上々の中、参加選手82人は日頃

の練習の成果を披露した。小林利彦さんは前半でホールインワンを3回決め、大会始まって以来のスコア8を出した。

女子の部では、同スコアの宮田さんと江田さんが、年の差3日で順位を分けた。

今回2回目という出辺さんは一番長い50mを1打で決めた。ホールインワンは30人。

宍戸小での思い出



赤澤 梅香
八幡下

私の6年間の思い出は、この伝説ある宍戸小学校で過ごせた事です。宍戸小学校には、田植え、稲

の集いなど地域の方々とのつながる行事がたくさんあります。このようない事は地域の協力がなくてはできない事です。その他にも、ボランティアで毎朝登下校を見守って下さり、「今日も元気に行ってらっしゃい。」と声をかけて下さいます。いつも温かく見守って下さるおかげで、毎日頑張ろうという気持ちで楽しく充実した日々を送る事ができました。私たちが卒業した後も、在校生の皆さんにはこの感謝の気持ちを忘れず、みんなで自まんでできる宍戸小になってほしいです。

まちの声・むらの声

です。



黒 智哉
橋爪1

僕の小学校での最高の思い出は小学校最後の運動会です。特に僕

は係活動の放送が心に残っています。なぜなら応援に来て下さった方々に正確に伝えることができたからです。初めは分かりやすく実況が出来るかなと心配でしたが先牛方のアドバンスなどもあり上手に実況することが出来ました。また、見ている方を楽にさせることが出来るように適度にアドリブを入れて、競技を分かりやすく、そして面白くなるように意識しました。

6年間の小学校生活では、他にもたくさん思い出を作ることができて本当に良かったです。そして宍戸小学校の、員として卒業できることがとても嬉しく思います。

三世代ふれあいの集い

村上美穂 大田町1

10月27日三世代のふれあいの集いが宍戸小学校で行われました。前半は児童による各学年の発表、吹奏楽部の演奏、縦割り班による体験活動がありました。各学年の発表は、それぞれの学年による工夫と日頃からの頑張っている姿がみられました。縦割り班活動は、高学年が低学年を面倒見ている姿が見受けられ、とてもほほえましく、子どもたちの成長している様子を感じることが出来ました。

後半はPTA主体の会食でした。今回も児童が田植えをし収穫したもち米を使ったお赤飯と、地域の方々からいただいた野菜を使い各学年保護者が朝から下準備をし、作ったけんちん汁と一緒に参加者全員が食べました。調理中保護者の皆様も会話を楽しみなが親睦を深める事が出来ました。会食は地区毎に集まり、子どもたち

も楽しく会話をしたり、おかわりをしたり美味しく食べる事が出来ました。保護者、地域の方々のご支援、ご協力がなければ出来ない事だと感じました。これからも変わらぬご支援、ご協力よろしくお願ひします。



▲こまで遊ぶ

高齢者食事学を勉強

1月25日社協会館調理室で行われた管理栄養士の小澤美智子先生による「高齢者食事学講座」に女性部から25人が参加した。

小澤先生は、一番こわい食中毒をなくすには、菌をつけない、繁殖させない、殺菌すること等を話した。参加者の皆さんは真剣にメモをとっていた。

メニューは、簡単でおいしくヘルシーで、次回の配食にぜひ活かしたいと話していた。

顕彰

1月26日第7回笠間市社会福祉大会が笠間公民館で開催された。大会に於いて宍戸支部から、幾浦忠男さん(旧陣屋2)と羽生力さん(松山南岡地)が支部役員として、多年にわたり支部の福祉活動に貢献されたことにより、笠間市社会福祉協議会長から表彰を受けた。

また幾浦さんは、受賞者34名・2団体を代表して謝辞を述べた。

親睦深めた女性部研修

秋晴れの10月25日、女性部39人は定刻5分前出発した。研修先は、日光市今市方面、船村徹記念館、日光歴史民俗資料館、杉並木公園と欲張りだ。私は船村徹に興味があったのでとても楽しかった。

船村徹記念館では実物大のパネルの五人歌手がお出迎え。小映画館では北島三郎「風雪流れ旅」の画面が写し出されて曲が流れ、活気に溢れた会場だった。

民俗資料館では、二宮金次郎から尊徳までの説明をボランティアから受けた。独学で治水工事、土地改良を研究され農業関係に尽力された文獻が一万点に達する、筑西市、桜川市にもたずさわって親近感を覚えた。

偉大なお二方にふれて、豊かな気分だった。

杉並木公園には水車が9箇所設置され、木々の中をゆったり歩き森林浴を楽しんだ。

帰途の車中では船村先生の「別れの一本杉」を合唱、しばし和やかなムードだった。

実りの多い研修だった。



▲二宮金次郎の話聞く

(旧陣屋1 小川福子)